

A 研究報告（概要一覧表）

平成 27 年 10 月 19 日
（平成 27 年 5 月～平成 27 年 7 月受理分）

研究報告のまとめ方について

- 1 平成 27 年 5 月～平成 27 年 7 月までに提出された感染症定期報告に含まれる研究報告（論文等）について、重複している分を除いた報告概要一覧表を作成した。
- 2 概要の後に、個別の研究報告の詳細を添付した。

血液対策課資料

【血液製剤、輸血の安全性に関する報告】

感染症	出典	概要	番号	詳細版 ページ
<肝炎ウイルス> なし				
<その他のウイルス>				
HIV感染	http://www.fda.gov/downloads/BloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/UCM446580.pdf	2015年5月、FDAより「輸血関連HIV感染症のリスク低減のための勧告の改定(業界向けガイダンス草案)」が発出された。男性と性交渉を持った経験のある男性供血者については無期限に供血延期とすると勧告されていたが、12ヵ月間の供血延期に改定された。	1	1～28
ウイルス感染	Med J Aust. 202(2015)267-269	オーストラリアにおける輸血によるロスリバーウイルス(RRV)感染の報告。2014年5月、オーストラリア赤十字血液センターは、2014年3月に供血し2日後に急性RRV感染症と診断された供血者の情報を入手した。当該供血者からの赤血球製剤は2014年3月に骨髓異形成症候群の患者に輸血され、受血者のRRV感染が確認された。これは、輸血伝播RRV感染の初の報告と考えられる。	2	29～34
<その他>				
細菌感染	Transfusion. 55(2015)636-646	フランスにおける輸血伝播細菌感染の報告。フランスでは2000～2008年に1,800万の赤血球製剤、194万の血小板濃厚液、244万の新鮮凍結血漿が輸血された。ヘモビジュランスシステムにより報告された輸血伝播細菌感染の発症率は、全血製剤、血小板濃厚液、赤血球製剤それぞれ100万件あたり2.45件、24.7件、0.39件であった。輸血伝播細菌感染の87%が血小板濃厚液で発生していた。	3	35～46

【その他の報告】

感染症	出典	概要	番号	詳細版 ページ
<肝炎ウイルス>				
B型肝炎	J Med Virol.87(2015) 589-600	日本におけるB型肝炎ウイルス(HBV)再活性化の報告。HBV再活性化の既知のリスク因子を有しない高齢患者2例においてHBVの再活性化が報告された。	4	47～60
<その他のウイルス>				
デング熱	Emerging infectious disease journal	日本におけるデング熱の報告。2014年8月、70年ぶりに国内発生したデング熱症例が発生し、2014年10月31日までに計160例が報告された。国立国際医療研究センターで確定診断された19例について分析したところ、18例がデングウイルス(DENV)-1と確認され、3例の患者の血清におけるDEN-1エンベロープタンパク質系統発生解析で、本アウトブレイクの初発症例患者から得られた株と100%の相同性を有することが明らかとなった。	5	61～66
ウイルス感染	Emerg Infect Dis. 21(2015) 359-361	2013年12月、仏領ポリネシアでのジカウイルスのアウトブレイク中に、タヒチにおいて血精液症の患者の精液からジカウイルスが分離された。	6	67～72
ウイルス感染	Emerg Infect Dis. 17(2011)880-882	ジカウイルスの性感染に関する報告。セネガルのBandafassi村に滞在していた米国人2例が帰国後ジカウイルス感染を発症した。うち1例の患者について、その妻も同様の症状を発現し、血清学的に感染が確認された。妻はアフリカやアジアの渡航歴はなく、同居している4人の子供には感染しなかったことから、性交渉が原因のヒト-ヒト感染が疑われた。アルボウイルスの性感染は過去に報告されていなかった。	7	73～82
エボラ出血熱	Clin Infect Dis. 60(2015)974-975	エボラウイルスは回復後の血液、糞便、嘔吐物から検出されなくなった後も、精液、膣分泌液、母乳からは検出される。精巣や乳腺等にウイルスが持続する理由としてはこれらの組織が免疫的に隔離された部位であり、ウイルス排除が遅れるとの報告。	8	83～86
コンゴ・クリミア出血熱	Int J Infect Dis. 33(2015)120-122	ロシアにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告。2011年5月にロシアでCCHF患者の治療を行った8例の医療従事者において院内感染が発生した。うち2例については患者との接触がなく、人工呼吸器使用中の患者の部屋に短時間滞在している間に空気伝播によって感染したことが疑われている。	9	87～92
狂犬病	KRQE NEWS 13. May.19(2015)	米国における狂犬病の報告。2015年4月、米国ニューメキシコ州南部においてキツネに咬まれたヒトから狂犬病ウイルスの新種の株が検出された。このウイルスはコウモリにおいて確認された狂犬病ウイルス株の近縁であることが示された。	10	93～102
<その他>				
ペスト	MMWR. 64(2015)429-434	米国における肺ペストの報告。2014年6月発熱、咳嗽を呈した患者Aが肺ペストと診断された。患者Aの飼っていたイヌもペスト菌に陽性であった。このイヌに接触した2例(患者B,C)に肺ペストが認められ、さらに患者Aおよびイヌに接触した患者Dにおいても肺ペストが認められた。	11	103～109

B 個別症例報告概要

- 総括一覧表
- 報告リスト

平成 27 年 10 月 19 日
(平成 27 年 5 月～平成 27 年 7 月受理分)

個別症例報告のまとめ方について

個別症例報告が添付されているもののうち、個別症例報告の重複を除いたものを一覧表の後に添付した（国内症例については、資料 3 において集積報告を行っているため、添付していない）。

感染症発生症例一覧

	番号	感染症の種類		発現国	性別	年齢 (歳)	発現時期 (年/月/日)	転帰	出典	区分	備考			
		器官別大分類	基本語								識別番号	報告日	MedDRA (Ver.)	
第24回	24 -1	感染症および寄生虫症	慢性C型肝炎	米国	女性	不明	1998	不明	自発報告	外国製品	14000036	2015/3/30	18.0	
第24回	24 -2	感染症および寄生虫症	C型肝炎	米国	女性	40歳	不明	不明	自発報告	当該製品	08000018	2015/5/28	18.0	2008年10月17日の初回報告、2008年11月12日、2013年6月4日の追加報告後に再度追加報告を行ったため、最新情報に更新した。報告回数：4回 本症例は、第11回報告 番号11-3において報告したものの追加報告である。
第24回	24 -3	感染症および寄生虫症	H I V感染	米国	男性	23歳	不明	不明	文献・学会情報	外国製品	15000010	2015/3/25 2015/6/23	18.0	2015年3月25日に副作用奨励報告（識別番号14306057）として報告。2015年6月23日に副作用症例報告を取り下げの上、感染症症例報告として再報告。
第24回	24 -4	臨床検査	A型肝炎抗体陽性	米国	女性	40歳	不明	不明	自発報告	当該製品	08000018	2015/5/28	18.0	2008年10月17日の初回報告、2008年11月12日、2013年6月4日の追加報告後に再度追加報告を行ったため、最新情報に更新した。報告回数：4回 本症例は、第11回報告 番号11-3において報告したものの追加報告であり、当該事象が追加された。
第24回	24 -5	臨床検査	セロコンバージョン検査 陽性	ドイツ	男性	12歳	2015/03/18	不明	自発報告	外国製品	15000003	2015/5/1	18.0	2015年4月8日の初回報告後に追加報告を行ったため、最新情報に更新した。報告回数：2回
第24回	24 -6	臨床検査	B型肝炎表面抗体陽性	米国	女性	40歳	不明	不明	自発報告	当該製品	08000018	2015/5/28	18.0	2008年10月17日の初回報告、2008年11月12日、2013年6月4日の追加報告後に再度追加報告を行ったため、最新情報に更新した。報告回数：4回 本症例は、第11回報告 番号11-3において報告したものの追加報告であり、当該事象が追加された。
第24回	24 -7	臨床検査	B型肝炎表面抗体陽性	米国	女性	62歳	2015/05/08	不明	自発報告	外国製品	15000007	2015/6/4	18.0	

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正措置報告
17	2015/6/26	150239	バクスター (株)	乾燥イオン交換樹脂 処理人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	人血漿	米国	有効成分	無	有	無